

博物館 アラカルト 26

● 『御問状答書』

当館通史展示室の近世コーナーには、冊子に描かれた挿絵の複製資料を何点が展示しています。当時の人々の生活を描いた資料として展示していますが、これらは江戸時代後期に作成された『御問状答書』と『菅波信道一代記』の挿絵を複製したものです。『菅波信道一代記』は、神辺西本陣（福山市神辺町）の亭主・菅波信道（1792～1868）の自叙伝ですが、今回は『御問状答書』について説明します。

文化年間の末頃（1813～16）、幕府の儒学者であった屋代弘賢は、「諸国風俗問状」という木版刷りの小冊子を各藩の儒学者や知人の儒学者・国学者に配布しました。この問状は、年中行事・着帯・袍衣・誕生・結婚・葬儀・老人祝・棟上・疫病除・庚申講などの風俗・習慣の各項目について、それぞれ質問を数か条列記して、回答を求めたものです。弘賢はこの頃、古今の文書・記録を収録する『古今要覧』を幕府の命令で編集する準備を進めていました。弘賢は、風俗・習慣もその対象に加えようという斬新な企画を立てていたのです。

福山藩では、文化15年（1817）3月、儒学者・菅茶山に答書を作成するように命じました。藩命を受けた茶山も、これ程の調査を一人で行うことはできないので、藩内をいくつかに分けて、その中で古事に詳しい庄屋に情報提供を求めています。これらを編集し、藩へ提出したのは、文政2年（1819）4月のことです。頼山陽の『茶山先生行状』では、「命ぜられて本藩風土民俗を大府に録上す」と記しており、茶山の業績の一つとしています。

弘賢の問状に対する答書は全国に残っていますが、その成果がまとめられることは、ついにはありませんでした。『古今要覧』1,000巻の内560巻までをまとめた天保13年（1842）、屋代弘賢は没し、編集作業は中絶して終わったのです。

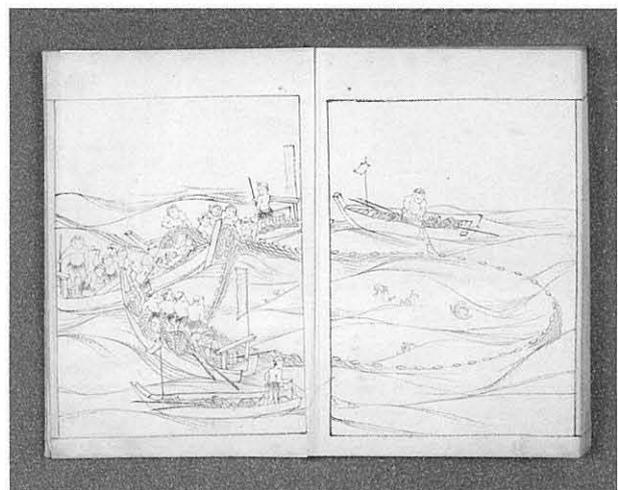
通史展示室には『御問状答書』の次の挿絵が展示されています。

- ①沼隈郡鯛網の図 軒の浦とその周辺の鯛網漁の様子
- ②出稼ぎの図 綿繰り道具を背負い、備後南部の綿作地帯の農村を稼ぎ歩く女たちの様子
- ③門徒衆御取越しの図 真宗の僧侶が門徒に講話をしている様子

いずれの挿絵も、当時の福山の風俗を現代に伝える貴重な資料です。

当館開館当時、『御問状答書』の稿本は茶山の子孫の方が所有されていましたが、平成5年に他の茶山関係の資料と共に「黄葉夕陽文庫」として当館に寄贈されました。

（主任学芸員 西村直城）



【写真】沼隈郡鯛網の図（稿本）